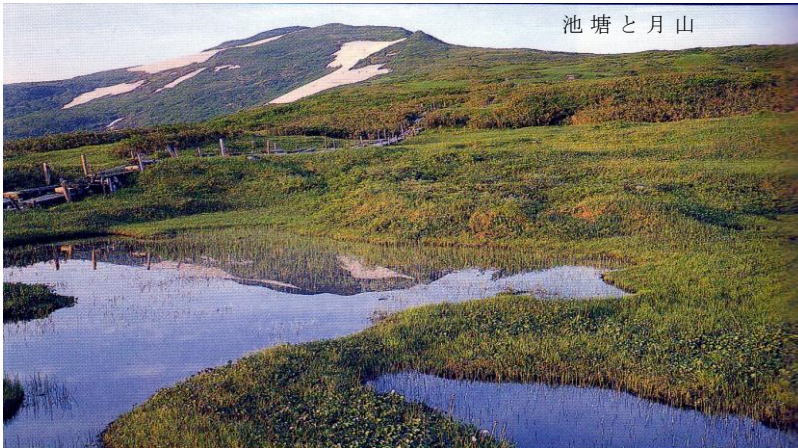


作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

東北の名山 月山－花、花、花を愛でて－



8月中旬、山形県の月山(1984m)に出かけた。庄内平野の南に天女のようにたおやかな稜線を描くこの山は日本百名山にもその名を連ねる名山である。

鶴岡駅からのバスを月山八合目で降り、8時半登山開始。快晴。仰げば、弥陀ヶ原の中を点在する池塘を縫うように木道が延びている。木道の左右は最初から花、花、花。キンコウカ、トウウチソウ、ミズシオガマなどなど。

次いで木道が石畳道に変わり一ノ岳への緩やかな登り。周囲の山腹の雪渓がまぶしい。この辺ではハクサンシャジン、トモエシオガマ、シラネニンジンが見事な群生を作る。

9時45分仏生池。池の辺りは、ハク



サンフウロ、コウメバチソウ、ニッコウキスゲなどが真っ盛りだった。その後は、行者返しの石口の急登。間もなく大峰を



ハクサンフウロ



ハクサンシャジン



ミヤマリンドウ



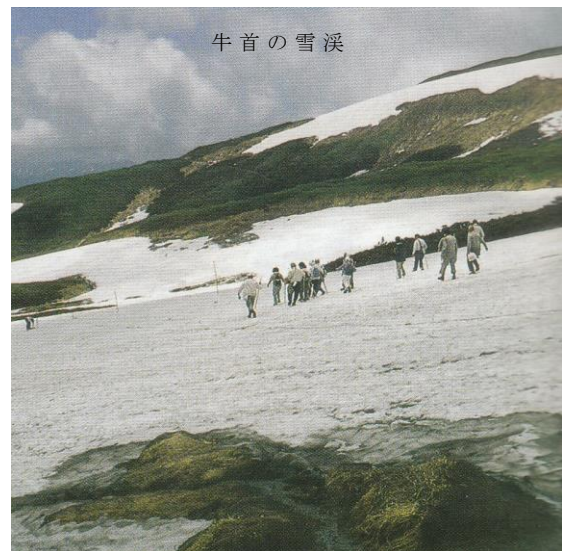
チングルマ



コバイケイソウ

過ぎると道は再び木道となり、月山頂上に続く斜面一面が大花畑となった。ハクサンイチゲ、ハクサンシャジン、ミヤマリンドウが多い。ピカピカ光るミヤマキンポウゲの群生もあでやかである。11時が月山山頂。石垣で囲った城砦のような月山神社に詣で、500円を払って、神妙にお祓いをしてもらった。頂上からちょっと行った先に

立派な頂上小屋があり、この周辺の草原もまた見事なお花畑である。花を愛で、写真を撮り、景色を眺め、ゆっくりと大休止を取った。



12時、山頂を後に姥ヶ岳経由で下山する。急なザレ場を下り鍛冶小屋を過ぎ、牛首の雪渓をトラバースする。雪渓でスキーを楽しむ若者達の声が周囲にこだまする。雪渓の水に洗われるこの辺りの草原にはチングルマ、コイワカガミ、コバイケイソウなどが咲き競っていた。

13時半姥ヶ岳。14時リフト上駅。下りリフトをちゃっかり利用させてもらい、山麓駅からは車道を10分程歩いて姥沢バス停到着が14時半だった。